

拒んだ春

核廃 東洋町の7カ月 ④

安芸郡東洋町の出直し町長選挙で争点の一つとなっていたのは、まちづくりの方向性だった。高レベル放射性廃棄物最終処分施設の立地調査地となることで出る交付金を使ってまちづくりを進めるのか、そうではない方法を選ぶのか。東洋町民が選んだのは後者だった。



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

打ち出の小づち?

原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

併。名前は伊方町のまま。は、佐田岬半島の根っこに位置している。基幹産業は農業。かつては出稼ぎに出る人も多い、貧しい土地だった。



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

とを形容する。少なくとも一時、原発は、打ち出の小づちだった。

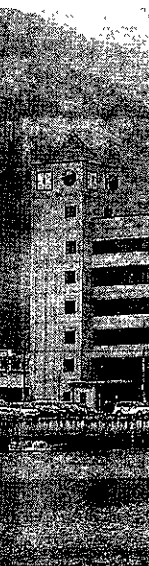
旧伊方町の町長らが地域振興を理由に四国電力へ原発誘致の陳情を始めたのは昭和四十四年のこと。



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

資金を得た小さな町は、次々と町道や集会所を新設した。町役場前に大きな生涯学習センターを建て、ミカンの共同選果場、グラウンド、観光物産センターなども整備した。本町の中間と比べると、その違いは一目瞭然(りょうぜん)。

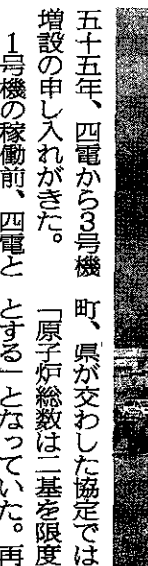
核廃棄物は原子力発電によって生まれる。そして原発の立地も地元巨額のカネをもたらししている。巨額のカネが入った自治体は、どんなふうになっていくのか。四国で唯一、原発が立地している愛媛県伊方町に足を運んだ。



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

町に落ちた原発関連の金をぎゅっと拾ってみよう。

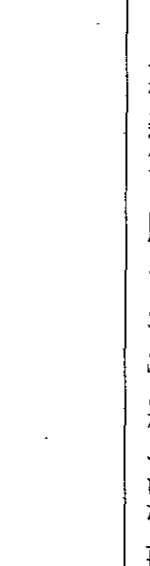
旧伊方町(旧瀬戸町、旧三崎町と平成十七年に合



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

町に落ちた原発関連の金をぎゅっと拾ってみよう。

たのは五十二年。五十七年



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

町に落ちた原発関連の金をぎゅっと拾ってみよう。

には2号機も運転を開始し



原発立地に伴う豊かさ、は箱物に象徴される。正面が伊方町の生涯学習センター。その左奥が6階建ての町役場。上の階は原発事故の際の対策拠点になる(愛媛県伊方町)

町に落ちた原発関連の金をぎゅっと拾ってみよう。

(社会部・吉良慶彦)